# Gordon Matta-Clark の空間の捉え方についての研究

-残された作品を活用した分析を通して-

日大生産工(院) ○木村 さくら 日大生産工 篠﨑 健一

# 1. 研究の背景

ゴードン・マッタ=クラーク (Gordon Matta-Clark 1943-1978) は, 1970年代にニ ューヨークを中心に活動した芸術家である。ニ ューヨーク州北部にあるコーネル大学建築学 部を1968年に卒業したのち、故郷のニューヨ ーク市に戻って、パフォーマンスや映像作品, 写真作品,レストラン経営など,サイト・スペ シフィックな性質を持つ作品制作や活動を数 多く行ってきた。中でも、彼は建物の床や壁を 切り取る大規模な作品によって知られている。 例えば、1974年にニュージャージー州の町イ ングルウッドの一軒家に垂直の隙間を切り開 いた《分裂 (Splitting) 》, 1975年にマンハ ッタンのハドソン川沿いの使われなくなった 倉庫で, 主に西側の壁を切り抜いた《日の終わ り(Day's End)》,同じ75年にパリの再開発 地区で, とり壊される直前の石造の住宅を円錐 形の空隙によって貫いた《円錐の交差(Conical Intersect)》などである。しかし、彼の活動 や作品は、一時的にしか存在しなかったものが 多く, 今日の鑑賞者にとって, マッタ=クラー クの建物作品の空間は体験をすることが不可 能である。それらの作品を現在までに伝えるも のは, 彫刻, 写真, 映像, 素描, 建物断片/オ ブジェ,文章などのドキュメンテーションに限 られている。



Fig. 3 《Splitting》

Fig. 1 Gordon Matta-Clark

1943 ニューヨークで生まれる

父はロベルト・マッタ

1962-1968 コーネル大学建築学科

1963 ソルボンンヌ大学で仏文学を学ぶ

1969 「Earth Art」展参加

1973 「Anarchitecture」グループ結成

1978 膵臓がんのため死去

Fig. 2 Gordon Matta-Clark 年表





Fig. 4 《Day's End》



Fig. 5 《Conical Intersect》

# 2. 既往研究と本研究の位置付け

マッタ=クラークに関する数多い研究に対 して、彼の制作活動における、写真、映像、 素描、建物断片/オブジェ、文章などの作品 を横断的に分析する。建物作品に留まらず, 写真作品などのような異なる表現媒体を多用 することで、マッタ=クラークの思想に通底 する建築と都市への視座を洞察し、彼が実現 した空間をより総合的に評価することが本研 究の目的である。

### 3. 作品分析

マッタ=クラークが制作活動を行なってい た1969年から1978にかけての作品143点を分 析対象とする。これらの作品を写真, 映像, 素 描,建物断片/オブジェ,記録/印刷物/書籍 に分類し,年別に分けたマトリックスを作成し, 作品分類と年代の比較考察をする。

	プリント(写真)	映像	素描	建物断片/オブジェ	記録・印刷物・書籍など
1969					CYV-PS-TORETOUS HIPMANAGES AV-II.
1970	5200		#014-#00 #014-#00 #014-#0	・小品の開発を表表したが	でいっていませんでいるかがまれる表記を表示した。 も2040間からかけ、いっとが発展の影響を一点。
1971	Articular Professional Residence Res	マルーダルと マママヤルの構造 たのかは たのかは ファッドを記述ファヤー(以)	######################################	-mace carver	でいーもの場合だらかが最終を通信指令とっ。 かはまな場合がフ ウェルの表ですりままりその代明的
1972	章 20 金 4 3 3 3 3 3 4 4 4 4 3 3 3 3 3 3 3 3 3	-4-7/-033 -2-686/2-66-60	Ell/les		構造を必要を できない。 でもない。
1973	700/20 2027-05 275 270-27 700/20 2027-05 275 270-27 700/20 2027-05 2020-06 700/20 2027-05 2020-06 700/20 2027-05 2020-06 700/20 2027-06 700/20 2027-06	-(h)-(h-2)(77%-c) -(h)-(h-2)(77%-c) -(h)-(h-2)(77%-c)	##(18-4-#0) ##(18-4-#0) ##(18-4-#0) ##(18-4-#0) ##(18-4-#0) #F(18-4-#0) #F(18-4-#0) #F(18-4-#0) #F(18-4-#0)	STOTOTSDIAN	できょういい人をおける できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできないできない。 できない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できない。 できないできないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできない。 できないできないできないできない。 できないできないできないできない。 できないできないできないできない。 できないできないできないできない。 できないできないできないできないできない。 できないできないできないできないできない。 できないできないできないできないできないできないできないできないできないできない
1974	であった。 である。 である。 であった。 である。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 でる。 で	・プラッキッグ ・ボッド・サット・サンドッドッドッドの 元年アテー ・ウー・サッジュイス・アンドゥ	##(244-6-#0)0 ##(234-6-#0)0 ##(444-6-#0)0 #044-6-9		イラ・ファ・ファ・ファ・田野が重ね。最後のシットの を ファット・ジャ イティ・シャ・ファ・ストの イティ・シャ・ストの イティ・カー
1975	1571-9-127-9-283 3000000 30000000 30000000 300000000	AND THE MEMBERS TO THE PLANT LESS AND THE PLANT LES	-Grant Station and Committee of the comm		- Godforfoldty-Friguesd.by-yid
1976	**************************************	#80000 # #7731-0 RT000			デアルム・アロンド・CET・CEE、直接を開発をデアー・/CA サマル・フェーカー日 ・ティフル・ヴァル
1977	②アッチック・アッケル込み ・ボラルボード ・ボラルボード ・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール・ボール	encent en	## 1419 - ## 145 - ##		FEED 25-2 PRACTICADS FEED 25-2
1978	機能(1)-2-70円機能を-6機能(0)を6機を ヤール(は10分(グラデュンジ イール(は10分(グラデュンジ ・1-0人(3) マール(3)		・23 - 10-10世界第二アンソンデルング・中央の登集集 ・研究・ソートの行列を対して対象の合とを ・フェン・ローの対象を対象の対象の ・フェン・ローのでは、対象の対象 ・フェン・ローのでは、対象の対象を ・フェン・ローのでは、 ・フェン・ローのでは ・フェン・ローのでは ・フェン・ローのでは ・フェン・ローのでは ・フェン・ローのでは ・フェン・ローのでは ・フェン・ローのでは ・フェン・ローのでは ・フェン・ローのでは ・フェン・ローので ・フェン・ローので ・フェン・ローので ・フェン・ローので ・フェン・ロ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		**************************************

Fig. 6 作成した作品分類と年別の比較マトリックス

#### 4. 結果と考察

比較マトリックスを作成した結果, 写真作品が 61点,映像作品が20点,素描作品が29点,建 物断片/オブジェ作品は4点, 記録/印刷物/

The Spatial Perception of Gordon Matta-Clark

-Through Analyzing the Utilization of Remaining Works of Gordon Matta-Clark-Sakura Kimura and Kenichi SHINOZAKI

書籍作品は29点に分類することができる。総合的に作品数が最も多い年代も1977年である。また,最も多く制作された作品分類は写真作品である。その中で写真作品が最も多く制作された年は1977年と1973年である。映像作品が最も作成された年は1971年であり、建物断片/オブジェ作品が最も作成された年は1970年である。また、素描作品と記録/印刷物/書籍作品が最も制作された年が1977年である。

分析した結果から、マッタ=クラークは、活動し始めた頃の1969年から1971年までは、主に映像作品や建物断片/オブジェ作品を中心に、彼が創造した空間を伝えていたことに対し、1972年以降は写真作品を中心に伝えていた傾向がある。

#### 5. 今後の展望

現状は作品における収集・分析であり、さらに細く作品を分類し、作品分類と年の関係を明らかにしていきたい。特に、写真作品の分類を行うことで、写真作品と建物作品の関係を明らかにしていきたい。また、作品が制作された場所を、作品分類や年と比較分析を行い、彼が実現した空間の捉え方を考察していきたい。

#### 参考文献

- Mark Wigley. Cutting Matta-Clark: The Anarchitecture Investigation. Lars Mueller. 2018
- 2) 東京国立近代美術館 編. 東京国立近代美術 館「ゴードンマッタ=クラーク展」図録. 東京 国近代美術館. 2018
- Pamela M Lee (2017) . Object to be Destroyed
   The Work of Gordon Matta-Clark School of Architecture The University of Sheffield
- 4) 平野千枝子 (2018) . ゴードン・マッタ=クラーク 空間の中の変容 Gordon Matta-Clark Mutation in Space. 242-255
- 5) 小林恵吾・中村竜太 (2019). Gordon Matta-Clark の空間の捉え方に関する研究-〈Building Cut〉の写真作品と 3 次元モデルを 活用した分析を通して- 日本建築学会大会学術 講演梗概集. 249-250